



東北に春を告げるまち

「東北に春をつげる町」をキャッチフレーズとしている広野町は、みかんの花咲く温暖な気候です。昭和六〇年にみかんの苗木を全戸に配布し、みかんを栽培しています。東北といえば、寒い、暗いというイメージがありますが、北緯三七度、太平洋に面していて冬の平均気温が一〇度を超えることなどから、たわわに実ったみかんが町内いたるところで見かけられます。



町民がみかんの苗木を植えて数年後にみごとに実ったことが、苗木全戸配布のきっかけとなりました。当時のエピソードとして、ミカン産地の人々に町の職員が苗木の買付けに行った時、「東北地方」ということで半信半疑のまま苗木を分けてくれたということです。冬はワラで冬囲いをしながら各家庭で大切に育てられたみかんの木は、現在大粒の実をつけるまでに生長しました。みかんの花咲く実りの丘の実現に向けて、町では同時期に役場の南西、海の見える高台約30アールの敷地にみかん畑を作り、ここに植えられた苗木もすくすくと育ち、冬間近の頃にはオレンジ色の鮮やかな実をつけます。毎年11月には町内の園児などによりミカン狩りが行われ、おいしいみかんに頬を赤らめています。

